



濟西徵錄卷之三

門 3
第 228
卷 1

て鮮く時を肉と健と胞とあるべし。外に是を近衛分
と云、又其肉を鮮く時ハ神至血脈神至血脈の織り分
は多量にべし。則ち神を近衛分と云、肉の筋織りのたわめて
ハ解剖してハ鮮く時をけらるる神を顕微鏡より見れば
ハ又其織を一筋織ハ其筋の素織りを見れば其筋の
し、されハあれは元形も顕微鏡の元子と云べし。
食塩もまた人の近衛分を其食塩を食塩の元子と云べし。
折るを知らぬ塩酸と曹達との分岐へし、これを見れば
と曹達との則ち其分として、これ又折るを知らぬ
分らるるハ初性元素よりなるべし、これハ初性元素ハ分
つへらるるハ初性元素のありて、其生體中ハ初性元素の
と知らるる、其體を保護する、初性元素ハ初性元素の
し、其性熱を初性元素のありて、其生體中ハ初性元素の

初性元素ハ初性元素のありて、其生體中ハ初性元素の
酸素、窒素、炭素、水素、燐、コロゲン、硫黄、フオリウム、カリウム、マ
トリウム、カルシウム、マグネシウム、シリシウム、マンガン、鉄の
かし、其他は類のありて、其生體中ハ初性元素のありて、
偶然の事、其成分と云ふは、
和性元素の親和性、其體中ハ初性元素のありて、
ハ生物、一ハ無生物、其體中ハ初性元素のありて、
ありて、他の無生物、其體中ハ初性元素のありて、
五、その膠、コ、ド、リ、子、ケ、ラ、子、脂、類、血、赤、の、外、最、大、の、著、名、
と、其、の、ハ、所、謂、骨、白、軟、物、骨、白、織、素、胞、素、コ、ロ、ビ、ウ、子、を、主、
此、五、物、ハ、世、の、プ、ロ、テ、ン、子、フ、ル、ビ、ン、子、と、名、号、す、
ものありて、プロテニ子ハ生源の義、生源の物の名ありて、
これ、何、れ、と、云、ふ、は、其、の、元、子、ハ、初、性、元、素、の、元、子、と、云、ふ、

と、台忘り名の塩を初へて成れ是、此物の中余生を具へ
互ふ、是より小顆を生ず、成れば元顆と云、形も固くして細
か、極め、直径五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細うさハ
ハ、筋分の一、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
ハ、筋分の一、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
う、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
微、この中に、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
その中に、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
元顆、此集ると、五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
と、めらむ、一塊、直径五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
二千分の一、五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
ハ、筋分の一、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
ハ、筋分の一、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細
ハ、筋分の一、刻印も五分、三分の一、三分の一、刻印も五、細

厚水も高も要する所、厚く、かく、実する、厚板の内、下を懸
色、の一点、亦、粒点、と見え、此、點、を、板、体、と、云、厚板を
圍み、て、胞、の、生、を、此、胞、を、則、ち、厚、く、そ、の、所、を、通、して、厚、く
澄、明、な、る、衣、を、て、同、物、也、て、厚、く、強、く、て、素、織、の、細、も、な、る、也、
所、厚、く、是、を、厚、く、強、く、て、判、別、せ、し、て、水、を、高、く、し、ハ、
板、と、云、互、應、の、極、も、厚、く、て、判、別、せ、し、て、水、を、高、く、し、ハ、
ハ、極、澄、く、し、ハ、一、少、水、を、板、の、界、限、鮮、明、な、る、其、板、体、以、上、も
着、る、く、強、く、ハ、一、少、水、を、板、の、界、限、鮮、明、な、る、其、板、体、以、上、も
厚、く、強、く、ハ、一、少、水、を、板、の、界、限、鮮、明、な、る、其、板、体、以、上、も
理、よ、て、ハ、板、を、固、く、し、て、厚、く、強、く、て、判、別、せ、し、て、水、を、高、く、し、ハ、
ら、され、く、も、板、を、一、て、の、ち、子、房、の、物、果、を、す、ハ、一、少、水、を、板、の、
リ、亦、厚、く、強、く、ハ、一、少、水、を、板、の、界、限、鮮、明、な、る、其、板、体、以、上、も

一、此、骨体、の、液、胞、之、の、養、を、血、より、得、れ、る、生、成、存、在、す、る、事、
ハ、云、ハ、可、し、一、テ、知、る、事、ナ、リ、
カ、
二、骨、の、り、く、所、も、骨、ノ、基、礎、を、成、す、る、外、に、液、を、此、
骨、に、与、へ、其、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
三、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
四、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
五、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
六、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
七、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
八、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
九、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
十、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、

ハ、此、骨、体、の、液、胞、之、の、養、を、血、より、得、れ、る、生、成、存、在、す、る、事、
ハ、云、ハ、可、し、一、テ、知、る、事、ナ、リ、
カ、
二、骨、の、り、く、所、も、骨、ノ、基、礎、を、成、す、る、外、に、液、を、此、
骨、に、与、へ、其、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
三、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
四、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
五、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
六、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
七、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
八、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
九、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、
十、骨、の、養、を、成、す、る、事、ナ、リ、

世を得る高の如く清濁を区く清濁を区く其織の如
性ありて他より異なる所ありこれと本性の性との合致の性
にありて之を結核織と別ち別ち之を結核織の核
維と別ち別ち之を結核織の維と別ち別ち之を結核織の維
酪酸水、火酒を注ぎ又大氣を乾かして其を注ぎ之を
酪酸を注ぎて溶けしこれと胃汁の溶力と拒し之を溶力
性結核の他織と雜りて人身に生ずる所を維管の核
韌果、嚙死、食費の軟骨を維持する韌果、筋脈の中層あり
之を他られを維管の中層ありて之を維管の中層あり
織の功を和ぬの性ありて之を維管の中層ありて之を維管
主ありて之を維管の中層ありて之を維管の中層ありて之を
謝遺あり、創傷ありて之を維管の中層ありて之を維管の中
之を和れ得ありて之を維管の中層ありて之を維管の中層あり

列印

七重強〇三
分寸一〇或
云一指八分
一〇大約横
三粒

皮膚結核織肉子脂を食りて骨病あり此病成りし織死
り處ハ殆ど死して居る所あり是為肉子の阿る所、只把解病
り人ハ蒸表の汗肉子を蓄積するを阿る、柳脂織より外
下結核の存し阿る所、之を結核織の葉肉子脂を食め
るもの多量、脂類の存ハ細微な質の透明ありて房肉子
ハ脂を食りて、顆粒の直径十分一列印あり是も十分の一列
印、外面の凹面ありて頭微鏡より水を以て鮮明なり、之
れは、之も、之も、之も、之も、之も、之も、之も、之も、之も、
の一葉肉子にて、葉肉子も、之も、之も、之も、之も、之も、
葉肉子と先ら、葉肉子を食りて、之も、之も、之も、之も、
之も、之も、之も、之も、之も、之も、之も、之も、之も、
此脂を食費ありて之を、之も、之も、之も、之も、之も、
脂質より成る者あり、之も、之も、之も、之も、之も、之も、

稀硫酸を注ぎ、皮膚より骨まで感せされ、皮膚が
解けて層状を剥く、骨は骨の外角織（即ち大気）に
着て粘液にひたされ、骨は骨の時期を以て推稜を、骨
體外を謝りて剥脱され、骨裏より骨の軟骨を、骨
て外表より軟骨を、骨體を、骨は骨の軟骨を、骨
骨織の骨密成、骨は骨素と骨白素と、骨は骨其質寒水に溶
け、骨は骨け、骨は骨の骨骨に感せて軟く、骨
は骨我石を身を清むる料に用ゆる所以、骨は骨
と長く煮れば溶く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨
軟骨を生きて、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨
らさる、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
る、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨

體內膜の表面、腔洞の壁面、血管及其末梢の裏面も、骨

骨より骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
を、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
胞は、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
て、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
る、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
連、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
され、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
を、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
か、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
は、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
多、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨
稜、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨の軟く、骨は骨

しはハ核胞壁に粘連を其母漸く上を了る下後山故を
て核壁壁との互に核物未だ之を充てた水膜の表面
滑平なる所血脈水脈の裏面ハ此層層ありて歸已被りた
頭微鏡より不てハ之を見あけ知しその他嫩粘膜軟膜也
至層分布を其し重層角序の被覆する所ハ、ある至層膜
消化経蓋地経の一方至口内咽喉食道婦人陰道の粘
膜ハ大凡小片小片をより剥去する所ハ、重層累積するを
知るへし其ニを轅馬状角序之云、尋常の角序膜面は樹
立して而の皮より轅馬状を其のちあるは、其の皮を
核よりとくを末より其のちあるは、膜面は接する所は
狭くして、末より其の粘膜を其のちあるは、倒し、其の
しりぬく粘連するものちあるは、其の狭くする所は、其の
へを嫩膏の漸く芽くし、其の皮を、轅馬状角序の核ハ

本末の中央より取り、いと成大正此を、其の爲に序及し
物するを其の中央より核より其の皮を其のちあるは、其の
その下より其の粘膜を其の粘連する所は、其の粘
膜に多く、其の粘膜を其の粘連する所は、其の粘
道、其の粘膜を其の粘連する所は、其の粘
膜に多く、其の粘膜を其の粘連する所は、其の粘
轅馬状に似るを其の外に所ありて、其の粘連する所の
ちあるは、其の粘膜を其の粘連する所は、其の粘
其の粘連する所の粘膜を其の粘連する所は、其の粘
極細の短糸を、其の粘連する所は、其の粘
ハ云ふ及び、其の粘連する所は、其の粘
其の粘連する所の粘膜を其の粘連する所は、其の粘
しして且狂暴なる所ありて、其の粘連する所の粘

濟南府志卷之十一終



